

言語学、はじめの一步 (24)

Q：前は「構造のメタファー」についてでしたが、「恋愛」を「旅」と同じ構造で捉えているという話などは身近な例を挙げて頂いて非常に分かりやすかったですね。

A：今回は「方向性のメタファー (orientational metaphor)」を取り上げたいと思います。

Q：どのようなメタファーですか？

A：方向性のメタファーとは「上-下(up-down)」、「前-後(front-back)」など空間の方向性に関係したメタファーです。このメタファーの基盤となっているのはやはり我々の身体です。人間は直立歩行します。そして直立姿勢を取る時に「上下」という空間認識が生じます。

Q：「前後」の認識は顔の向きに関係しているわけですね。

A：そうですね。前々回からここで紹介している Lakoff and Johnson (1980) *Metaphors We Live By* では方向性のメタファーの代表として「上下のメタファー」を取り上げています。その例としてまず HAPPY IS UP; SAD IS DOWN (楽しきは上、悲しきは下) という概念メタファーを挙げています。そしてこの概念メタファーを基盤とする表現として次のような例を挙げています。I'm feeling up. (気分は上々だ)、I'm feeling down. (気持ちが沈んでいる)、You're in high spirits. (上機嫌だね)、He's really low these days. (彼は最近本当に沈んでいる)、I fell into a depression. (気持ちが落ち込んでしまった)。

Q：確かに私たちは楽しくて気分がいい時には顔を上げますが、悲しい時はうつむいてしまします。我々の身体的経験が基盤となっていることがよく理解できます。

A：人間は常に直立姿勢を取っているわけではありません。寝るときは横になります。このような身体的基盤に基づく概念メタファーとして CONSCIOUS IS UP; UNCONSCIOUS IS DOWN (意識は上、無意識は下) があります。Get up. (起きろ)、He rises early in the morning. (朝早く起きる)、He fell asleep. (眠りに落ちた)、He's under hypnosis. (催眠状態の下にある) などの表現がその例です。

Q：体調が悪い時も横になったりしますね。「病床上に伏せている」とか言います。

A：そうですね。Lakoff and Johnson は HEALTH AND LIFE ARE UP; SICKNESS AND

DEATH ARE DOWN (健康と生命は上、病気と死は下) という概念メタファーを提示しています。He's in top shape. (最高に体調がいい)、He came down with the flu. (流感で倒れた) などともそうですね。

Q：方向性のメタファーの基盤になるのは身体的経験だけですか？

A：いえ。社会的・文化的経験が基盤となっているメタファーもあります。MORE IS UP; LESS IS DOWN (より多きは上、より少なきは下) メタファーなどはその典型です。我々は数や量が増えれば高が高くなるということを経験的に知っています。ですから My income rose / fell last year. (私の収入は昨年上昇した / 落ちた) などは普通に使います。

Q：Countdownなども同じですね。

A：はい。社会的経験が基盤となっている他の例としては GOOD IS UP; BAD IS DOWN (よいことは上、悪いことは下) や HIGH STATUS IS UP; LOW STATUS IS DOWN (高い位は上、低い位は下) などがありません。Things are looking up. (景気は上向きつつある) や He has a lofty position. (彼は高い地位にある) などと言います。

Q：なるほど。景気は右肩上がりとも言いますよね。面白いですね。では最後に、参考文献をお願いします。

A：『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー—』、谷口・美著、研究社(2003年)です。

今回の参考文献は、メタファーとメトニミーに関する研究を、初学者にも分かりやすく解説してくれています。本稿を続けて読んで頂いている方であれば、今まで見てきた内容も含まれているので再確認が出来るでしょう。本書を読めば、メタファーやメトニミーが決して特殊な存在ではなく、いかに日常生活に浸透しているかが理解できると思います。

本書の請求記号は832 Ⅱ Tanで、資料IDは490540です。本館の第1閲覧室に配架されているので、是非手に取ってみてください。そして夏休みの1冊に加えてみてはいかがでしょうか。

にゅうがく なおや

(福井工業大学准教授・英語学・英語史)

ふじい たつや (司書・課長補佐・アジア関係図書館)